

平成 27 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	149500194	事業の開始年月日	平成23年12月1日
		指定年月日	平成23年12月1日
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語たかつ新館		
所在地	(〒213-0031) 神奈川県川崎市高津区宇奈根637-6		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成28年1月15日	評価結果 市町村受理日	平成28年6月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年2月19日	評価機関 評価決定日	平成28年6月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】 この事業所はJR南武線久地駅から徒歩12分の、付近にはまだ梨畑などが散在する閑静な住宅地に立地している。グループホームや有料老人ホーム、小規模多機能型居宅介護事業所、歯科医院、薬局などの医療、介護関連施設を集めた「メディカル・ヴィレッジ高津」の一角に位置している。 建物は鉄骨3階建てで、1階に小規模多機能型居宅介護事業所を併設し、グループホームは2～3階を利用している。玄関からは車いす対応のエレベーターで移動できる。
【散歩の日課と外出行事】 「生き活きと暮らそう」「生き活きとした暮らしは笑顔と呼ぶ、笑顔は生きる喜びに繋がる」という理念を職員間で共有している。この理念の実現に向けて日常の外出支援を継続して実施しており、身体機能の維持向上や気分転換にも繋がっている。 また、月1回の外出行事を企画し、法人のバスを利用して職員総出で利用者と外出している。川崎大師や深大寺、海ほたる、森林公園、バラ園、ゾラシア、多摩動物園、皇居など利用者の懐かしい思い出の場所へ出かけており、笑顔や張り合いのある生活につながっている。
【医療連携の充実】 医療連携体制加算の算定を受け、協力医の内科往診が月2回、歯科往診が月2回あり、看護師が週2回健康管理を行っている。医師も看護師も24時間対応可能な医療体制ができている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様がおののけらしく生き活きと笑顔で安心して暮らせるよう、スタッフ皆、寄り添いの気持ちを忘れず、笑顔で楽しく勤めています。またチームワークのよい職場です。

平成25年4月より利用者は毎朝、スタッフと共に館外へ散歩に出ています。利用者の外出希望が多く、身体機能の維持・向上という課題もあったことから外出支援の一環として行っています。散歩を毎日行う事で、外を歩く事に対する楽しみができ、生活意欲の向上となっている他、下半身の筋力低下を防止でき、より長距離の歩行が可能となりました。

複数の行事を行っていますが、特に外出行事は利用者にも喜ばれ、事前に外出先の希望を伺うようにし、実際に行く事で外出に対する参加意欲も高くなっています。スタッフも、行事を楽しむという意識が強くなり、行事に対する意欲も強くなっています。その為、たかつ新館では継続して、定期的な外出を行う事が可能となっており、利用者・スタッフ共に楽しみつつ参加出来ています。

事業所名	花物語たかつ新館
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『生き活きと暮らそう!』を理念とし、入居者がその方らしく笑顔で安心して生活出来る様、勤めています。また職員も楽しく仕事をするように心がけています。	前施設長が職員の意見を集めて作成した理念を現施設長が引き継ぐことで、さらに深く職員に浸透させている。新人は導入研修で説明を受けている。職員は笑顔を大事にして、利用者の支援に当たっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の納涼祭や例大祭への参加をしている他、入居者が散歩中、近隣の方々と挨拶をする事により顔馴染みになりお声をかけていただくこともあります。	町内会に加入し回覧板で地域情報を得ている。地域の夏祭りや例大祭に参加し、子供神輿の担ぎ手に利用者がお菓子を配っている。フラダンスのボランティア等と交流の話を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者と近隣の方々との挨拶や近所への買い物時に会話を通じて、認知症の方への理解をいただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容・ご意見等を、リーダー会やフロア会議で施設長より報告し、施設内のサービス向上に繋がるよう話し合いをし、実行しています。	町内会長、地域包括支援センター職員、隣接系列事業所管理者、利用者家族が参加している。利用者と活動状況、行事の報告の他に避難訓練等について意見交換をしている。	民生委員をはじめ広く地域の人々の参加を呼びかけ、地域の方々の意見を運営に反映することをこれからも期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と情報交換やアドバイスを受たり、入居者の認定調査、入居人数の現状確認等、様々な面において連携を取る等して協力関係を構築しています。	運営推進会議の議事録を高津区の担当者に届ける際に近況報告をして連携している。区主催の研修会に参加し、入居状況を地域包括支援センターに報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止についての研修を行い、どのような行為が拘束にあたるのかを学び、日頃のケアに活かしています。フロアの扉は防犯上の理由から、施錠していますが、外出希望者についてはいつでも開ける様になっています。また職員へは施錠が拘束にあたる事も周知し、理解したうえで行っている事も研修の中で伝えていきます。	法人の年1回の身体拘束防止研修会に参加した職員が、職員全員に報告して、周知している。日頃から言葉遣いなどが拘束に当たらないか職員同士で注意し合っている。玄関もフロアのドアも常時施錠しているが、利用者の外出したいそぶりが見えると職員が付添って散歩に出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を行い、どのような行為が虐待にあたるかを学んでいます。入居者に対する言葉遣い、態度に気を付け、常に入居者への対応について会議や日々の申し送り等で話し合い、改善出来る体制となっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い、その際に得た資料や情報を職員間で共有しています。現在成年後見制度をご利用されている方はいらっしゃりませんが、研修等を通して職員への周知をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族からの契約に関する質問については、入居者やご家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、分かりやすく説明して理解・納得していただいてご利用を開始いただいています。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や面会時にご家族との意見交換を行い、ご意見・ご要望について、実現に向けた話し合いを職員間で行い、運営に反映しています。</p>	<p>家族の来訪時や運営推進会議の機会に意見・要望を聞き出すようにしている。家族から「外出行事の予定を事前に知りたい」との要望があり、フロア入口の扉に掲示をして好評である。</p>	
----	---	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議やリーダー会議、各委員会において、職員同士が互いに意見を出し合い、集約し実践する事で、運営に反映をしています。	職員は行事、研修、安全・身体拘束、環境、広報の委員会に属して、それぞれ意見を出している。3～6か月毎の個人面談では悩みも聞くことがある。設備の故障や物品購入の希望、行事の提案などが多く、その都度早急に対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長・フロアリーダーが職員と面談を行い、職員の意見を聞き、必要時は就業環境の面において改善を行い、職員が意欲的に就労出来る様にしている他、各種研修を行う事で、自信を持って業務にあたる事が出来ています。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修や講習会の案内を休憩室に掲示する他、研修委員より職員に対し、研修参加を促す等、研修を受ける機会を確保しています。また、法人としては、新人研修も行っています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	施設外の研修に参加し、他施設の職員と、相互の施設サービスについて情報交換を行い、サービスの質の向上が出来る様に努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時アセスメント・ケアプランを把握し、会話を重ね、安心して過ごしていただける様にし、入居者のご要望がある場合、可能な限り、実現出来る様努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅での入居者の生活の仕方や趣味をお聞きする等し、不安・ご要望を聞く等、会話を重ねるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者が現在必要としている支援内容をアセスメントや生活上のご様子から見極め、必要時はサービス内容の変更を話し合い、実践しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な範囲内で入居者には家事に参加をしていただき、入居者と職員が相互に協力し合う関係が作れています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に入居者の日々のご様子やご要望等を少しでも時間を作り、話をしています。行事の写真等を月一度ご家族に郵送しご家族の繋がりを大切にさせていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が行ってみたい場所などは外出行事で出かけたりしています。また近所のお店やお散歩コースも馴染みの場所となっています。ご家族やお友達等の面会も大事な時間としてゆっくり過ごしていただいています。	友人や知人が訪ねて来る時には居室で歓談できるように、お茶でもてなしている。家族と一緒に馴染みの美容院へ出かける方や外食する方もいる。電話の取次ぎや年賀状発信の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の多くが参加出来る内容の会話を行う他、家事のお手伝いを通して、入居者同士が協力して支えあい・助け合って生活出来る様支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先への見舞いや、退居後も退居先へ面会に行く他、ご家族に連絡を取り、近状報告を聞く等、ご本人との間に作られた関係が途切れないようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活上の意向を聞く様にしています。その意向を職員間で話し合い、入居者が満足出来る様検討し実践しています。入居者の表現が困難な場合、表情からくみ取る様に努力しています。	希望や意向は生活の中で聞き取るようにしている。コミュニケーションが取りにくい場合はご本人の表情や仕草から判断している。情報は申送りノートや支援記録に記入して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前にご本人の情報を得ている他、アセスメント表を熟読し、これまでの生活歴を把握しています。生活上の様子は個人記録に記入しサービス開始時から現在までの経過がわかるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の日々のご様子を個人記録に残し、必要時は申し送りや朝礼時に話し、フロア職員や施設長、医療連携看護師が把握出来るようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議や利用者に関するモニタリングの際、入居者の個人ケアに関する情報を共有し、意見交換をした上で現状に即した介護計画を作成し、支援を行っています。	フロア会議でカンファレンス等を行い検討している。3か月毎にモニタリングをして職員間で意見交換し、往診記録や看護記録を参考にし、家族の要望も取り入れて介護計画を作成している。原則6か月毎、状況の変化時はその都度、計画を見直している。	

27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>生活記録や申し送りに記録し、フロア会議や朝礼を通し職員間で情報共有し、介護計画の見直しが必要な際は活かしています。</p>		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者のADLの変化等により、他サービスの利用が必要な際は、カンファレンスを行い、ご本人の状態に適した対応を行う様に行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	森林公園やバラ苑といった地域の施設を利用する他、近隣の祭りへの参加、ご近所の方との会話、買い物など楽しんで生活を送ることができています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の内科往診の他、特変がある場合、連絡を取り、受診に繋げるといった連携を取り、適切な医療を受けられる体制が構築されています。	入居前からのかかりつけ医を受診している方もいるが、それ以外の方は協力医の月2回の往診を受けている。歯科は月2回往診がある。看護師は週2回8時間勤務し、協力医、看護師共24時間対応可能である。整形外科を家族対応で受診している方とも医療情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや個人記録を確認し、医療連携看護師との情報共有を常に行っています。必要時はいつでも連絡が取り合え、入居者に対する適切な受診・看護に繋がられる様になっています。		

32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中は入居者への面会を頻繁に行い、病院関係者や御家族とも相談しながら、早期な退院に備えています。</p>		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合・或いは終末期に向けた方針については入所前の段階でご家族に説明し、了承していただいています。また、常日頃からその様な話題もご家族と十分話し合うようにしています。	重度化対応、看取りに関する指針を入居時に本人・家族に説明し同意を得ている。状況の変化に合わせて家族の相談を受ける方針である。まだ看取りの事例はない。職員向け研修を年1回実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者が急変した際のマニュアルがフロアに設置されており、それに基づいた対応が出来ます。また急変時の対応に関する研修も行われており、職員の対応能力も向上しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行い災害時の避難誘導が円滑に進められる様になっています。近隣に同じ法人の施設があり、協力体制が出来ます。また、運営推進会議で話し合い地域との協力体制にもつなげています。	避難訓練は年2回夜間想定で行い、内1回は消防署が立ち会った。近隣の同法人事業所や隣の薬局、商店及び町内居住職員との協力体制が出来ている。非常用食料と水は法人から定期的に送付され他の防災要品も一緒に備蓄されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を尊重し、居室に入る際は必ずノックをし、トイレに入った際は必ずドアを閉める等といったプライバシーにも配慮をし、常に言葉遣いや態度に気をつけて対応を行っています。	新入職員へは導入研修で言葉遣いや接遇を説明し、日頃はOJTで指導している。キャリアアップ研修の中にプライバシー保護の内容もあり職員同士で確認し合っている。個人情報を含む書類は書庫に施錠して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替え時の洋服の選択、買い物時にどの品物を買うか、必ず、入居者に自己決定をしていただく機会を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	入居者のその日毎の生活ペースを尊重し、どのように過ごすか、入居者の意向に沿った対応を日々行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひげ・髪の手入れ、洋服の選択はご自身で行っていただき、よりよくおしゃれが出来る様、必要時は声かけを行う等しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き・食器洗い・盛り付け等利用者に手伝って頂いています。職員は、食事前には各料理の説明を行う等、食事が楽しみの一つとなる様支援しています。	食材は給食業者から冷凍で配送され、湯せんして提供している。ごはんと味噌汁は職員が作る。利用者は盛り付け、食器洗いなどを手伝っている。月1回は外食をし、誕生会はケーキでお祝いをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりに合った調理法で提供している。食事・水分摂取量を個人記録に残し、どの程度摂取出来ているかを常に把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で行える方は行っていたき、支援が必要な方は職員が付き添い、介助して口腔ケアを行なっています。義歯を装着されている方は夜間帯にポリドントを使用し除菌しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の内容を個人記録に記入し、排泄の間隔が空いている方に対しては声掛けしご本人の同意後、誘導を行なっています。また排泄の際、ご自分で行えることは行っていただいています。	排泄内容を記録してパターンを把握し、定時に声かけをして本人の意思の下でトイレ誘導をしている。8割の方がリハビリパンツとパットを利用している。夜間時に関しても本人の了解の下でトイレ誘導し、見守りしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分摂取していただき、散歩や体操を通して運動を行うようにしています。便秘の方に関しては起床時に白湯を提供しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の間隔が長くても3日以上開かない様、入居者に入浴を勧める声掛けを行っています。入浴希望の有無を尊重し、入浴予定時間の変更等、臨機応変な対応が行えています。また、体調不良等入浴が困難な場合は足浴・清拭で対応しています。	週に2～3回は入浴できるように支援している。入浴を好まない方には無理はせず、時間をずらしたり翌日にして対応している。季節に合わせて、しょうぶ湯やゆず湯を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の希望に応じて、居室でお休みになる他、フロアのソファに座って寛いで頂いています。散歩やレクリエーション等の実施により、日中は活動的に過ごし、夜間は安眠出来る環境作りが出来ています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、職員2名体制による誤薬防止チェックを行っている他、フロアに処方箋リストを設置し、いつでも職員が薬の内容を確認出来る様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器洗い、掃除等、多くの日常家事を皆さんと楽しみながら行って頂いています。また外出レクリエーションや散歩を通して利用者に気分転換をしていただいています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物は日課として行います。月1.2回程外出行事を企画し実行しています。普段なかなか行けない場所へ行き、入居者とご家族から喜ばれています。	ほぼ毎日のように近隣の公園への散歩や買い物に出かけている。月1回は法人バスを借りて全員で外出している。川崎大師、深大寺、海ほたる等へ行き利用者は数日前から楽しみにし家族にも好評である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際、職員が代金を利用者にお渡しし、ご自身で料金を払っていただくようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者のご要望がある際はご家族への電話をかける支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	週1回、玄関やフロアに花を活け、季節感を出しています。フロアの壁にはイベントのポスターや写真を貼ったりしている等、入居者が、楽しんで暮らせる環境作りをしています。	デイルームは採光が良く明るい。温湿度は職員が調整し快適な環境が保たれている。玄関やフロアに花守が生花を飾り季節感がある。壁に行事写真や習字作品を飾り生活感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が自由に会話でき、お好きな時に居室にてお休みになる事が出来る等、入居者が過ごしやすい環境作りをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れた物やご家族の写真を置き、入居者にとって居心地のよい、空間作りをしています。	居室にはエアコン、ベッド、洗面台、クローゼットが設置されている。それぞれが使い慣れたタンス、テレビ、仏壇などを置き、人形や家族写真に囲まれて気の休まる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の生活の妨げとならないかを念頭に環境整備を考えています。また、家事のお手伝いをしていただく等、出来るだけ自立した生活が送れる様にしています。		

事業所名	花物語たかつ新館
ユニット名	3F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『生き活きと暮らそう!』を理念とし、入居者が笑顔で生活出来る様、職員各自も笑顔で接し、理念を共有し、実践しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際、近隣の人々と挨拶を行っています。また、近隣の店へ買い物に行く他、近所の神社のお祭りに参加するなど交流を行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の行事に参加している時や、散歩時等で入居者と触れ合ってもらい、職員の対応を通して、認知症の方に対する理解を深める機会を作っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて出た意見を、申し送りや会議で共有し、フロアでのサービス向上に繋げています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や利用者の認定調査、入居人数の現状確認等、様々な面において市町村担当者と連携を取る等して協力関係を構築しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束行為の防止に関する研修を実施し、身体拘束行為の禁止を職員全員が意識し互いに注意しあえる環境にあります。フロアの扉は防犯上の観点から施錠していますが、外出希望者にはいつでも応じられる様になっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を行い、どのような行為が虐待にあたるかを学んでいます。入居者に対し言葉遣い、態度に気を付け、職員同士で注意し合える体制となっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い、その際に得た資料や情報を職員間で共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族からの契約に関する質問については、利用者やご家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、分かりやすく説明して理解・納得していただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会や面会時にご家族からのご意見・ご要望はフロア会議などで話し合いをし、サービス向上に反映しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議・リーダー会議で職員の意見を聞く機会を設け、意見を元にした業務への反映がなされています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長・フロアリーダーが職員と面談を行い、職員の意見を聞き、意欲的に就労出来る様にしてしている他、各種研修を行う事で、自信を持って業務にあたる事が出来ています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修の実施、外部での講習への参加の案内を掲示し、職員一人一人の能力向上を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設職員の訪問や見学があった時や外部研修の際に、互いの施設サービスに関する意見を交換しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人と面談し不安や要望を聞き、入居時アセスメント・ケアプランに反映しています。またその情報を職員で共有し、安心して生活できるように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人・ご家族からご自宅での生活の仕方や趣味をお聞きする等し、不安・ご要望を聞く等、会話を重ねるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者が現在必要としている支援内容をアセスメントや入居者の生活上のご様子から見極め、必要時はサービス内容の変更を話し合い、実践しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な範囲内で利用者には家事に参加をしていただき、入居者と職員が相互に協力し合う関係が作れています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご家族ともお話しするように努めています。その中で利用者の日々のご様子やご要望を伝えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やお友達等の面会があったり、日頃の買い物に行くお店は利用者にとって馴染みとなっています。また馴染みの人や場所に関してはコミュニケーションとして出身地のお話しをしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の多くが参加出来る内容の会話を行う他、レクリエーションや家事のお手伝いを通して、入居者同士が協力して支えあい・助け合って生活出来る様支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先への見舞いや、退居後も退居先へ面会に行く他、ご家族に連絡を取り、近状報告を聞く等、関係が途切れないようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活上の希望や意向を聞き、職員で情報を共有し実現に向けた取り組みを行なっています。入居者の表現が困難な場合は表情からくみ取るように努力しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前にご本人の情報を得ている他、アセスメント表を熟読し、これまでの生活歴を把握しています。足りないところはご家族に聞いたりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の日々のご様子を個人記録に残し、必要時は申し送りや朝礼時に話し、フロアスタッフや施設長、医療連携看護師が把握出来るようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議にて入居者の現状と生活上の問題点に対する対応法を話し合い、導き出された対応案を実行している他、ご本人やご家族の意向を参考にした介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りに記録し、フロア会議や朝礼で職員間で情報共有し、介護計画の見直しが必要な際は活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人一人のADLの変化により、どのようなサービスが必要となるかをカンファレンスを行い、ご本人の状態に適した対応を行うようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	森林公園やバラ苑といった地域の施設を利用する他、近隣の祭りへの参加、ご近所の方との会話、買い物など楽しんで生活を送ることができています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の内科往診の他、特変がある場合、連絡を取り、受診に繋げるといった連携を取り、適切な医療を受けられる体制が構築されています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや個人記録を確認し、医療連携看護師との情報共有を常に行っています。必要時はいつでも連絡が取り合え、入居者に対する適切な受診・看護に繋がられる様になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会を頻繁に行い、ご家族や病院関係者と情報交換、相談をしながら、早期な退院に備えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、或いは終末期に向けた方針については入所前の段階でご家族に説明し、了承していただいています。また、常日頃からそのような話題もご家族と十分に話し合うようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対策マニュアルがフロアに設置しており、それに基づいた対応が出来ます。また、急変時の対応に関する研修を行っており職員の対応能力も向上しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行い災害時の避難誘導が円滑に進められる様になっています。近隣に同じ法人の施設があり、協力体制が出来ます。また、運営推進会議で話し合い地域との協力体制にもつなげています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を尊重し、居室に入る際は必ずノックをし、トイレに入った際は必ずドアを閉める等といったプライバシーにも配慮をし、常に言葉遣いや態度に気をつけて対応を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えのときの洋服の選択、買い物時にどの品物を買うかを必ず入居者に自己決定をしていただく機会を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	入居者のその日毎の生活ペースを尊重し、どのように過ごすか、入居者の意向に沿った対応を日々行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひげ・髪の手入れ、洋服の選択はご自身で行っていただき、よりよくおしゃれが出来る様、必要時は声かけを行う等しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き・食器洗い・盛り付け等出来る事はして頂いています。スタッフは、食事前には各料理の説明を行う等、食事が楽しみの一つとなる様支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりに合った調理法で提供している。食事・水分摂取量を個人記録に残し、どの程度摂取出来ているかを常に把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で出来る方は行っていたき、支援が必要な方は職員が付き添い、介助して口腔ケアを行なっています。義歯を装着されている方は夜間帯にポリドントを使用し除菌しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の内容を個人記録に記入し、排泄の間隔が空いている方に対しては声掛けし誘導を行なっています。また排泄の際、ご自分で行えることは行っただいています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分摂取していただき、散歩や体操を通して運動を行うようにしています。便秘の方に関しては起床時に白湯を提供しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の間隔が長くても3日以上空かないように利用者に入浴を勧める声掛けを行っています。入浴希望の有無を尊重し、入浴予定時間の変更等、臨機応変の対応が行えています。また、体調不良等入浴が困難な場合は足浴・清拭で対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の希望に応じて、居室でお休みになる他、フロアのソファに座って寛いでいただいています。散歩やレクリエーション等、日中活動的に過ごし、夜間は安眠出来る環境づくりができています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員2人体制での服薬チェックを行い、誤薬防止に努めている他、フロア内に処方箋ファイルを設置し、いつでも用法・容量が確認出来る様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器洗い、掃除等、多くの日常家事を行って頂いています。また、レクリエーションや散歩を通して入居者に気分転換をしていただいています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物は日課として行います。月1.2回程外出行事を企画し実行しています。普段なかなか行けない場所へ行き、入居者とご家族から喜ばれています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際、職員が入居者に代金を渡し、ご自分で料金を支払っていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの希望があれば、ご家族への電話が出来る様支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	週1回、玄関やフロアにお花を活け季節感を出しています。フロア壁にはポスターや写真を貼り、入居者が楽しんで暮らせる環境づくりをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が自由に会話ができ、好きな時間に居室にてお休みになる事が出来る等、入居者が過ごしやすい環境づくりをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れた物やご家族のお写真を置き、入居者にとって居心地のよい空間作りをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の生活の妨げとならないかを念頭に環境整備を考えています。また、家事のお手伝いをして頂く等、出来るだけ自立した生活が送れるようにしています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 花物語 心の新館

作成日 平成28年 6月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	民生委員・地域の方の広い範囲で参加して頂くこと。利用者の意見を聞き、運営に反映していきたい。	民生委員 老人会等、地域の方や、運営推進会議に参加して頂くこと。	民生委員 老人会等に運営推進会議を開催の日を知らせる。	1年
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。